

第2回 産業データサブワーキンググループ

事務局資料

第2回 アジェンダ

日時：令和6年7月30日(火)：13:30 - 16:00

場所：オンライン

アジェンダ	スピーカー	時間
オープニング - 第1回の振り返り - 本日の議論ポイント - プレゼンテーション・事例の一覧	事務局（BCG）	10分
プレゼンテーション・事例のご紹介	プレゼンター ファシリテーション: 生貝座長	60分
全体ディスカッション	ディスカッション: 全員 ファシリテーション: 生貝座長	70分
今後の進め方、クロージング	事務局（BCG）	5分
		145分 (5分バッファー)

➤ オープニング

- 第1回の振り返り
- 本日の議論ポイント
- プレゼンテーション・事例の一覧

プレゼンテーション・事例のご紹介

全体ディスカッション

今後の進め方、クロージング

第1回のご意見を踏まえた整理

- 本SubWGでは、企業及び産業競争力を念頭に、データ越境にかかるリスク・打ち手の整理を行う

カテゴリー	主なご指摘事項		対応の方向性
目的・実現したいこと	誰の視点・価値に立ったマニュアルとするか	➤	企業のデータ利活用促進を目的の主眼に置くが、産業全体の競争力の保護・強化も価値に含める
	内容・パターンが多岐にわたる中、どこまで網羅的なマニュアル作成を目指すか	➤	網羅性を担保するものではなく、参考・有用となる実例を盛り込む
スコープ・定義	データの定義	データの対象範囲・スコープは何か(個人データ、地図・ゲノムデータ、AI学習用画像データ等)	産業データとして、越境が発生しうる企業が保有するデータを全て検討スコープに含む ➤ 特に営業情報、技術情報等の産業競争力に影響するデータに焦点 また国内・海外等で生成されたデータが海外・第三国等に移転・越境する場面に加え、必ずしも越境しなくとも海外での生成データが同域内・国で活用される場面も対象に含む
	リスクの可視化	法規制に関してどこまで深ぼるか ● 対象の国 ● 分析範囲（規制の背景・良し悪し）	基本的に過去調査結果に基づく情報共有とする ➤ SubWG検討において、有識者・委員が認識・保有する情報について、可能な限り追加する
	対応・打ち手	全社組織・ガバナンス体制に関して、どこまで対応を深ぼるか	全社組織・ガバナンス体制の体系的な整理は行わないが、組織的な打ち手として、データ越境に関連する打ち手を盛り込む

第2回SubWGの位置づけ

- 本日は個別事例の紹介を踏まえ、具体的なリスク・打ち手の議論を行う

議論の流れ

第1回
(5月30日)

- 前提・背景の確認
- 議論のスコップや方向性の議論
- データ共有・活用の種類の確認・議論
 - 実例の洗い出し

第2回
(本日)

- 事例のご紹介・プレゼン
- ステップごとの議論
 - ① リスク可視化
 - ② 評価・意思決定
 - ③ 実行・管理

第3回
(9月下旬)

- 事例のご紹介・プレゼン
- 第2回の残論点に関する議論

第4回
(11月中旬)

- 取りまとめの骨子案・記載内容の確認
- 本検討の国内外への周知のあり方の議論

論点

- 目的・背景を踏まえ、検討の全体像に追加すべき点はあるか
- 対応策検討の際の考慮要素の整理をどう考えるべきか
- データ越境のパターン・リスク等の各要素に追加すべきものはあるか
- 代表的な例として、取り上げるべき実例はあるか

- データ越境に伴い発生するリスク及び対応策の紹介
 - 特に大きなリスクに対する有効な「打ち手」の実例
- 「打ち手」のあり方の方向性の検討
 - 組織・オペレーション的に有効な打ち手の検討
 - 越境するデータに関する契約において、どのような項目が含まれるべきか
 - 特に有効な技術の活用事例のインプット

- これまでの議論が過不足なく反映されているか
 - ユーザーにとって分かりやすい記載となっているか
- 取りまとめた内容を、誰に、どのように打ち出していけると良いか

本日のプレゼンテーション・事例のリスト

- データ越境の具体的な事例・関連動向として、下記内容についてご紹介をいただく

スピーカー

プレゼン・事例概要

- | | |
|----------------|--|
| ① 浜田委員（三菱電機） | Factory Automation（センサー・製造機器）におけるデータ越境 |
| ② 石原委員（日立製作所） | 器機制御装置からデータ越境及び、EUデータアクトの影響 |
| ③ 土屋様（富士通） | サプライチェーンリスクマネジメント及び、GHG可視化におけるデータ越境 |
| ④ 石井委員（トヨタ自動車） | サプライチェーンに跨るCFP/企業デューデリジェンス可視化におけるデータ越境
（ウラノベースのSCデータ流通基盤） |
| ⑤ 中島委員（RRI） | 産業データ動向と欧州のデータ規制 |
| ⑥ 鈴木委員（日本オラクル） | クラウドサービスを利用したデータ越境とデジタル主権 |

本日の議論ポイント

- 個別事例の内容を踏まえ、データ越境マネジメントの考え方に取り込むべき視点及び、特に留意すべき越境パターン・リスク及びその対応策について議論を行いたい

A. 国際データマネジメントの考え方で、追加で考慮すべき観点はあるか？

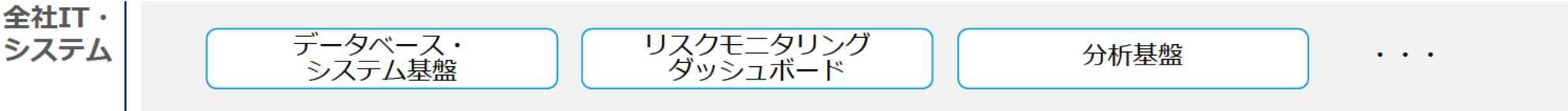
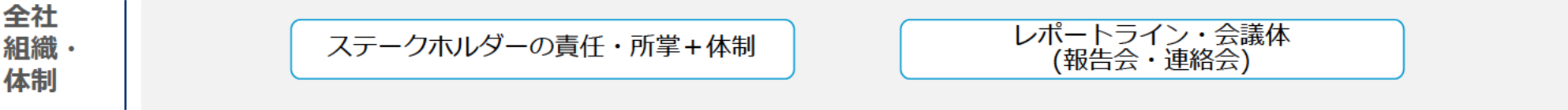
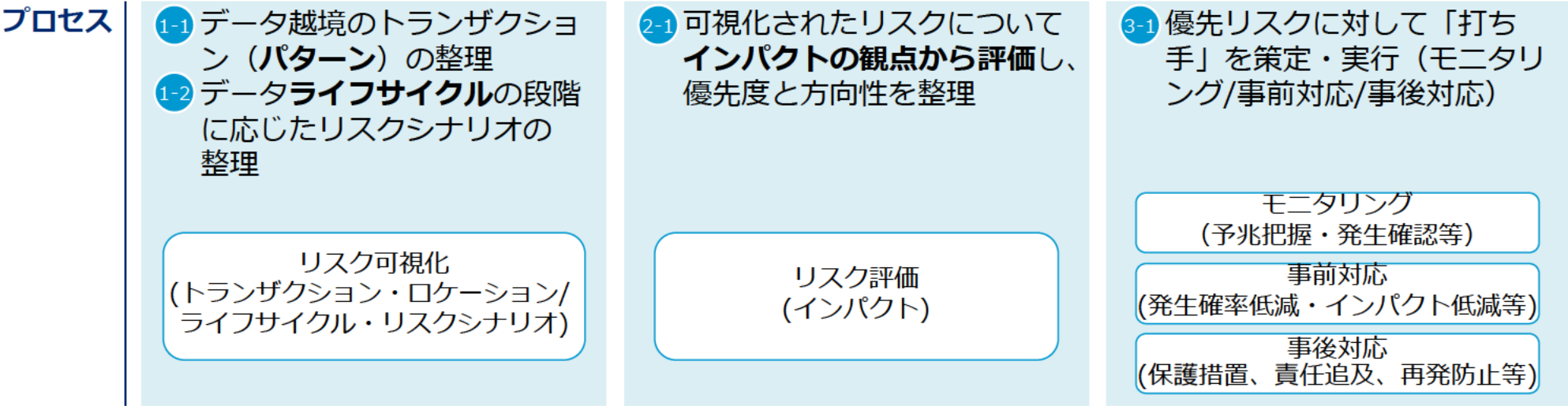
- ① 越境・リスク可視化で、ステークホルダ/データ/手段以外に、考慮すべき要素・観点はあるか
- ② リスク評価にて、判断軸として有用な観点はあるか
- ③ 対応策にて、モニタリング・事前・事後対応以外に、追加すべき対応カテゴリーはあるか

B. 特に留意すべき越境パターン、それに付随するリスク及び有用と想定される対応策は何か？

- ① 発生の蓋然性が高く、発生時のインパクトが大きいデータ越境リスクは何か
 - 当該国の国内法・規制
 - 取引先企業との間での機密情報の漏洩、目的外利用など
- ② それはどのような場面で、特に発生しやすいか
- ③ 特に有効と想定される措置は何か(モニタリング・事前対応・事後対応)

データの国際流通・越境に係るマネジメントステップの全体像

- 本SubWGでは、越境データマネジメントについて、①リスク可視化、②評価・意思決定、③実行・管理の観点に分解して議論する。



打ち手のカテゴリー（案）

- 打ち手として予兆・発生を検知する「モニタリング」、リスク予防・インパクトを低減する「事前対応」、発生後の回復を行う「事後対応」を想定

凡例：  組織的対応/  法的対応/  技術的対応



モニタリング

リスク発生の疑い・
予兆を把握

-  法規制を起因とした予兆の把握（政策の検討情報など）
-  企業を起因とした予兆の把握（不振な挙動モニタリングなど）

リスク発生の
有無を把握

-  リスク発生件数・実績の把握（法の執行件数、組織内発生件数など）



事前対応

リスク発生確率を
下げる・予防

-  ガイドラインの策定、保管場所・サービスの選定
-  データ取り扱いに関する契約の締結
-  アクセス制限や持ち出しの制御

発生時のインパクト
を低減する

-  データ取り扱いに関する契約の締結
-  データの保護・暗号化



事後対応

保護措置、
責任追及

-  リスク発生のインパクト把握、初動対応
-  契約・法令に基づく、保護措置・責任追及

再発の防止

-  社内業務・利用サービスの変更
-  契約の見直し

オープニング

- 第1回の振り返り
- 本日の議論ポイント
- プレゼンテーション・事例の一覧

➤ プレゼンテーション・事例のご紹介

全体ディスカッション

今後の進め方、クロージング

再掲) 本日のプレゼンテーション・事例のリスト

- データ越境の具体的な事例・関連動向として、下記内容についてご紹介をいただく

スピーカー

プレゼン・事例概要

- | | |
|----------------|--|
| ① 浜田委員（三菱電機） | Factory Automation（センサー・製造機器）におけるデータ越境 |
| ② 石原委員（日立製作所） | 器機制御装置からデータ越境及び、EUデータアクトの影響 |
| ③ 土屋様（富士通） | サプライチェーンリスクマネジメント及び、GHG可視化におけるデータ越境 |
| ④ 石井委員（トヨタ自動車） | サプライチェーンに跨るCFP/企業デューデリジェンス可視化におけるデータ越境
（ウラノベースのSCデータ流通基盤） |
| ⑤ 中島委員（RRI） | 産業データ動向と欧州のデータ規制 |
| ⑥ 鈴木委員（日本オラクル） | クラウドサービスを利用したデータ越境とデジタル主権 |

オープニング

- 第1回の振り返り
- 本日の議論ポイント
- プレゼンテーション・事例の一覧

プレゼンテーション・事例のご紹介

➤ 全体ディスカッション

今後の進め方、クロージング

(再掲) 本日の議論ポイント

- 個別事例の内容を踏まえ、データ越境マネジメントの考え方に取り込むべき視点及び、特に留意すべき越境パターン・リスク及びその対応策について議論を行いたい

A. 国際データマネジメントの考え方で、追加で考慮すべき観点はあるか？

- ① 越境・リスク可視化で、ステークホルダ/データ/手段以外に、考慮すべき要素・観点はあるか
- ② リスク評価にて、判断軸として有用な観点はあるか
- ③ 対応策にて、モニタリング・事前・事後対応以外に、追加すべき対応カテゴリーはあるか

B. 特に留意すべき越境パターン、それに付随するリスク及び有用と想定される対応策は何か？

- ① 発生の蓋然性が高く、発生時のインパクトが大きいデータ越境リスクは何か
 - 当該国の国内法・規制
 - 取引先企業との間での機密情報の漏洩、目的外利用など
- ② それはどのような場面で、特に発生しやすいか
- ③ 特に有効と想定される措置は何か(モニタリング・事前対応・事後対応)

オープニング

- 第1回の振り返り
- 本日の議論ポイント
- プレゼンテーション・事例の一覧

プレゼンテーション・事例のご紹介

全体ディスカッション

➤ 今後の進め方、クロージング

次回以降の想定アジェンダ

- 本日も含む全4回のSubWGを通じて、以下の順で議論を進めることを予定。

議論の流れ

第1回
(5月30日)

- 前提・背景の確認
- 議論のスコップや方向性の議論
- データ共有・活用の類型の確認・議論
 - 実例の洗い出し

第2回
(本日)

- 事例のご紹介・プレゼン
- ステップごとの議論
 - ① リスク可視化
 - ② 評価・意思決定
 - ③ 実行・管理

第3回
(9月24日)

- 事例のご紹介・プレゼン（続き）
- 第2回の残論点に関する議論

第4回
(11月中旬)

- 取りまとめの骨子案・記載内容の確認
- 本検討の国内外への周知のあり方の議論

論点

- 目的・背景を踏まえ、検討の全体像に追加すべき点はあるか
- 対応策検討の際の考慮要素の整理をどう考えるべきか
- データ越境のパターン・リスク等の各要素に追加すべきものはあるか
- 代表的な例として、取り上げるべき実例はあるか

- データ越境に伴い発生するリスク及び対応策の紹介
 - 特に大きなリスクに対する有効な「打ち手」の実例
- 「打ち手」のあり方の方向性の検討
 - 組織・オペレーション的に有効な打ち手の検討
 - 越境するデータに関する契約において、どのような項目が含まれるべきか
 - 特に有効な技術の活用事例のインプット

- これまでの議論が過不足なく反映されているか
 - ユーザーにとって分かりやすい記載となっているか
- 取りまとめた内容を、誰に、どのように打ち出していけると良いか